

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年10月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677100150
法人名	社会福祉法人 以和貴会
事業所名	老人グループホーム さくら通
所在地	鹿児島県鹿屋市串良町下小原3103-2 (電話) 0994-62-8887
自己評価作成日	平成22年9月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成22年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

遠くに山々を望む緑豊かな環境の地に、法人の福祉施設が存在し、その一角に当ホームはあります。
建物内は、天井が高く明るく、ホール内からは芝生や庭木が眺められ、苑庭散歩も自由に行えます。
日常生活では、施設間の交流を始め、できるだけ身体を動かす活動を取り入れ、季節の催しや誕生会、地域の行事等に参加し、入居者の皆様が楽しく健康で過ごせるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ☆防災訓練を毎月実施し、入居者の安全第一の取り組みをしている。
- ☆職員は仲がよく、連携を取り合い明るい雰囲気を利用者の支援を行っている。
- ☆苑庭がひろく、自由に散歩や懇談ができ、開放感に浸ることができる。
- ☆系列の各種介護事業所が隣接しており、職員も利用者も相互に交流し、それぞれの特質を活かしながら支援し合っている。
- ☆職員が入居者の生活歴・個性・特質を把握しており、お互いに学び、共に支えあう関係ができています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員の意見を集約し、利用者の意向に合ったお世話と地域とのふれあいを目指した独自の理念を作り、玄関や職員の目につく場所に明示している。職員は理念を共有しながら、日々のケアに取り組んでいる。	職員で作った理念を、具体的な実践に移すために、理念について深く検証しながら支援している。ミーティング時に管理者・職員で話し合いを行い、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板を通して地域の行事情報を得ており、催しに参加・協力している。また、隣接している通所サービス利用者の見学や、学生の職場体験、ボランティアによる踊り等の慰問を受け入れ、地元の人々との交流に努めている。	地域の大迫地区自治会に加入し、各種の会合や、祭りなどのイベントに参加している。保育園のお遊戯会に招かれたり、保育園からの訪問や小中学生の職場体験を受け入れるなど、親しく交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	高齢者が、地域で安心して暮らせるよう相談や情報提供を行い、施設見学や体験学習を随時受け入れ、認知症の方への接し方や理解が深まるよう支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議に於いて、ホームの活動状況、入居者状況、事故・ヒヤリハット報告、評価への取り組み状況等の報告を行い、意見をもとにサービスの質向上に活かせるように取り組んでいる。	運営推進会議で、理容ボランティアへの対応の仕方や、消防訓練時の車椅子の利用者への支援の仕方など、多様な提言や要望・意見を受け止めサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや市の担当者に質問、相談、助言を貰っている。随時に施設見学があり、利用者の生活状況を見てもらっている。介護認定の申請代行、生活保護者の報告も行っている。	行政窓口とは、事業実施上の考え方や、利用者への対応の仕方、事業実施報告など連携を取っている。地域包括支援センターとは、地域情報の交換など日常的に連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会会議において、身体拘束の弊害についてマニュアルに基づき理解を深めている。毎月、委員により拘束状況を確認している。日中は、玄関の施錠をせず、自由に庭の散歩が行えるようにしている。	身体拘束廃止委員会で、「エプロンの利用で身体拘束にあたる部分はないか」など細やかな検討を進め、拘束の弊害について正しく理解し、指定基準に基づく支援に取り組んでいる。日中玄関の施錠はしていない。	ホームを取り巻く全体的な出入りの自由度について、身体拘束廃止委員会や、運営推進会議等で検討してみることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止啓発研修会に参加し、全職員へ報告している。高齢者が、虐待を受け、命にかかわる時には、発見者は速やかに報告する義務があることを共通認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	県社協や介護福祉士会、社会福祉士会、地域包括支援センター等が開催する研修に参加し、理解が深められるよう努めている。個々の必要性については、関係者と話し合い活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結や解約又は改定等の際は、利用者や家族へ内容を分かりやすく丁寧に説明し、不安や疑問点はないか尋ね、十分に理解、納得が得られた上で同意してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。相談・苦情受付担当者や第三者委員を選任し、重要事項説明書やホーム内に明示している。運営推進会議で出された意見や入居者・家族からの意向を確認し運営に反映させている。	利用者や家族と職員との相談し易い人間関係及び、相談窓口・第三者委員・意見箱・運営推進会議などの仕組みができています。「看取りをして欲しい」「生活保護受給に関したこと」「被害妄想への対応の仕方」など、意見や要望を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会として、毎月の処遇会議や職員会議、毎日のミーティング等がある。出された意見や提案は管理者定例会で報告し、改善に取り組んでいる。	職員は職員会議・処遇会議・ミーティング等で意見や要望を提出し、代表者や管理者は、支援の仕方・勤務についての希望など取り組み、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の能力や段階に応じた研修を計画し、資格取得にも積極的に支援し、スキルアップが図れやりがいをもち働けるように努めている。介護休暇や産前産後・育児休暇等を利用し職場復帰できる環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は、年間研修計画を作成し、段階に応じた研修に参加している。運営者による新人研修や介護未経験の職員は、施設実習を行っている。又、資格取得にも積極的に支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区グループホーム協議会に加入している。研修会に参加し、他のグループホームと相互交流に努め情報交換を行いサービス向上に努めている。今年7月、日本認知症グループホーム協会鹿児島県支部に入会する。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に見学してもらい、入居決定する時も本人の意思決定を尊重している。自宅からの入居は、担当ケアマネジャーと一緒に自宅訪問し、ハード面・ソフト面・家族との関係など情報収集している。入居後も見守りや傾聴に努め、状況をこまめに家族に報告し、安心して馴染んで頂ける様、関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居前に施設見学してもらい、パンフレットや資料による十分な説明を心がけ、要望や困っていること、不安等はないか尋ね家族の気持ちに添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等が、どんな生活を望んでいるのかを確認し、それぞれの意向に沿った支援が受けられるように努める。必要時は、他サービスの紹介や調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事や日常の家事、季節の行事など利用者と職員は助け合いながら一緒に活動している。一人一人の生活歴や得意とする事（野菜作り、昔話、季節行事）を教わったり、励まされたりの支えあう関係が出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは随時、面会、電話、通信等で情報交換を行っている。誕生会には、家族の出席をお願いし、一緒に祝っている。利用者個々の問題解決には、家族の意見も取り入れるようにして絆を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も馴染みの関係が継続できるように、家族からも協力を得ながら、行きつけの美容院、病院、自宅訪問、墓参り等に出かけている。隣接する福祉施設の友人、知人との面会の支援を行っている。	家族や馴染みの人との、手紙の代筆・代読、電話の発信や取次ぎ、家族や地域住民との来訪支援、祝い事や法事への参加支援、行きつけの店や、帰宅・墓参り等、馴染みの関係の継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あらゆる場面で座席等の位置に配慮し、利用者同士の関係がスムーズに安心して暮らせるように支援している。孤立しがちな利用者には、職員が関わり交流支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご縁を大切にし、必要に応じて本人・家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活状況や会話の中から本人の思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報や職員の気付きも含め検討している。	ゆっくと寄り添う支援の中から、本人の思いや意向を把握している。また、家族からの情報や他の利用者とのふれあいの様子からも意向を汲み取り、困難な場合は表情や動きからも把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込書や居宅介護支援事業所等からの情報提供、本人家族からの聞き取りにより、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個々に日常生活状況を記録（身体状況、心身状態等）し、スタッフ帳に、受診結果や状態の変化等を記し職員間で共有している。月1回の処遇会議で、評価を行い現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からは、面会や担当者会議時に、主治医からは、受診時に意見や指示を貰い、毎月の処遇会議において、モニタリングを実施し見直しを行っている。個々の関係者の意見やアイデアを反映した計画作成を心がけている。	毎月モニタリングを実施し、介護計画と本人の現状・介護支援のあり方を確認している。本人や家族・主治医・職員の意見等をケア会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日常生活状況記録に、バイタル・食事、水分量・排泄・入浴・生活状況を個別に記入し、毎日のミーティングやスタッフ帳により、全職員が情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の状況、要望に適切に対応できるようにスタッフ帳を活用したり、毎日のミーティングで話し合い柔軟に調整や支援を行っている。（自宅訪問・墓参り・理美容院・見学・買い物・受診・相談援助など）</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアや慰問。隣接する福祉施設、自治会に入会している地域、民生委員、消防署、市職員、かかりつけ医、福祉事務所等と協同し支えている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に、かかりつけ医を確認し、定期随時に家族や職員が付き添って受診している。利用者個々の状況に応じて日頃の健康状態や食事量、体重の変化などを報告し、かかりつけ医より指示をもらっている。受診結果を、家族・職員へ報告し共有を図っている。</p>	<p>かかりつけ医との関係を大切にし、継続した受診ができるように支援している。また、日常的な状況変化時の指示など関係を深めて、ケアに活かしている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>普段は、併設の特定施設の看護師と日誌を通じて情報の共有を図っている。状態変化時は、看護師より昼夜を問わず相談が受けられ状態確認がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関へは、情報提供票を作成し本人に関する情報を提供している。入院時は、本人が安心して治療に専念できるように面会を心がけ、病院関係者より経過を確認している。退院時は、看護サマリーをお願いし、情報の共有に努めている。</p>	/	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、本人・家族に、重度化した場合の方針を説明している。状態変化時は、医師も交えて治療方針を決定する。指針に対する同意書も取っている。全職員が共有し、対処方法について話し合っている。医療連携体制加算も取っている。</p>	<p>重度化や看取りについて、入居時に説明し家族からの同意を得ている。状況変化時の支援の方針については、本人・家族・主治医等と随時協議し、関係者間で共有するようにしている。看取りについては、積極的治療を要しない範囲で関わる方針である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ホームでの急変や事故発生時は、マニュアルに沿っての対応を心がけている。全ての職員が、定期的に救命講習会に参加し、応急手当や対応の知識が身につけられるようにしている。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年2月、スプリンクラーの設置をした。年2回（昼間・夜間想定）消防署立会いの避難訓練を、施設内では随時非難自主訓練を行っている。運営推進会議委員に、地区消防団長が新たに加わり、隣接する施設とも協力体制を築いている。</p>	<p>防災・避難訓練は、年2回消防署立会いのもと、昼・夜間想定で実施している。スプリンクラーの設置・緊急通報装置の設置など防災対策を進めており、隣接の事業所職員や地域の参加も得られている。災害時対応の備蓄もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、声かけや対応に留意している。ホーム使いは、プライバシーに配慮し、家族用を作成しなおしている。写真掲載については同意を得ている。また、守秘義務については、職員採用時の誓約書もある。	職員は入職時に、個人情報保護に関する誓約書を出している。整容・入浴介助・排泄支援・食事介助など必要なときにさりげなく寄り添って行うようにしている。できるだけ本人の選択の場面を作り、意向に沿った支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活状況の把握に努め、個々に合ったコミュニケーションを心がけることにより、本人の思いや希望が引き出せ自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床や就寝時間、入浴やレクリエーションなど、利用者個々の生活リズムに留意しながら、希望や状況に応じて柔軟に支援している。職員間の強調性を向上させ、支援の質を高めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望時は、家族や職員が付き添い、好みの衣類や日用品が買え、行きつけの理美容院が利用できるような支援している。普段もそれぞれ好みのものを身につけられるように、職員から家族へお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、法人の栄養士が作成している。（日曜日はホームで利用者と考え、買い物をしている。）職員は、食材の下ごしらえ、後片付け、食器洗いなどできる方と行い、同じテーブルを囲んでサポートしながら楽しく食事をしている。食事中は、BGMを流している。	利用者の嗜好の希望を取っている。調理の下ごしらえやお盆・テーブル拭き等の配膳準備、食後の片付けなど、できることをそれぞれ行っている。職員も一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしている。時には、外食でバイキング料理などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人栄養士の作成した献立を中心に、食事提供しているが、食事量の少ない方へは、嗜好にあわせた別メニューや食事形態を心がけ栄養確保に努めている。水分は、個々にあわせて定時・随時イオン水や紅茶・お茶等好みのもの準備し、水分量の確保に努め摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々のレベルにあわせた口腔ケア（歯ブラシ・コップ・ハミングッド・舌ブラシ等使用）を行っている。夜間は、洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日、排泄状況を記録し、個々のパターンに合わせて、排泄意のない方へもトイレでの排泄を心がけている。排泄間隔が短い方・失禁の多い方も自尊心を傷つけないようオムツ使用を控えて支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿取りパットなどを工夫して排泄の自立推進を支援している。失禁の原因把握などを職員で話し合い、失禁回数が減少している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維の多いメニューとなっており、水分も好みの飲み物を定時随時準備し摂取量の確保に努めている。レクリエーションや散歩等を行い適度な運動も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日を入浴日とし、バイタル測定し本人の状態や希望にあわせて入浴支援している。入浴拒否がある時は、声掛けや時間を置くなど工夫し、音楽の好きな方へは音楽を流し、話好きな方へは会話を心がけ、楽しく入浴でき清潔が保持できるようにしている。	基本的には一日おきの入浴日としているが、希望者は毎日でも入浴できる。音楽を聴きながらの入浴や、一人でゆったりした入浴、職員と会話を楽しみながらの入浴、ゆず湯・入浴剤の活用など、入浴を楽しむことができる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	屋外散歩やレクリエーション等を日中に行い、生活リズムが整えられるように支援しているが、日中、入眠状態の多い方、昼寝の習慣のある方、体調不良の方等は、安静や習慣を大切に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに薬の明細書を綴り、目的・副作用・用法・用量について理解できるようにしている。薬は、それぞれ名前・日付を記入し管理している。服薬は本人のレベルに合わせて介助し、症状に変化があれば看護師に報告し、スタッフ帳に記録するなど職員間で共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、利用者と一緒に菜園作り、ゲーム、踊り、お茶、食事の準備、片付け、洗濯干しやたたみ等を行い、利用者一人ひとりの役割や楽しみが増えるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常の買い物や散歩・隣接のデイサービス慰問は、職員と一緒に参加しており、一人ひとりの意向や身体状況に合わせた支援を行っていきおる。本人の希望は、職員間で話し合い関係者へ協力をお願いし外出支援を行っている。	日常的には、隣のデイサービス訪問や回覧板をもって近隣の家庭訪問をしたり、野の草花や野の食材摘みなど、散歩を兼ねて出かけている。行事としては、みかん狩り・花見・大隈公園・柏原海岸等への外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を所持し使う事の大切さを理解している。本人希望時は、小遣いを準備して一緒に買い物に付添っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人希望時は、いつでも電話できるように支援している。手紙の代筆や代読支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井の高い広々とした明るいホールに、対面式の台所やソファの空間・和室が設けてあり、苑庭が眺められ、休息やテレビ視聴が楽しめるようになっている。苑庭には椅子を準備し、木陰で歌を歌ったり菜園を眺めたり散歩を楽しめるように工夫している。	ホールは、広々とした造りで、天井も高く、開放的でくつろぎの空間である。和室やソファのコーナーがあり、思い思いの場所に居心地よく過ごせるようになっている。通風・換気・温度・湿度・採光にも気配りがなされ、季節感豊かな共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広々としたホールに、和室や食堂テーブル・ソファが配置され、気の合う同士で座りテレビ視聴・レクリエーション・体操・会話を楽しんだり、一人和室で横になったりできるように、職員が見守り工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた日用品や家具、ラジカセ、仏壇など馴染みのものを持って来ていただき、居心地よく安心して生活していただけるように工夫している。	畳の部屋・ベッドの部屋など、それぞれの状態や好みによって部屋作りがされている。仏壇やたんす・テーブルセットなど、馴染みのものを調度し、居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、要所所に手すりが設置され段差のない作りとなっている。居室内は個々の状態に合わせてベッドや畳の部屋とし、安全に自立した生活が送れるように工夫してある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない